

おはようございます。

前はスーパームーンの話をしましたでしたが、きょうは3年ぶりの皆既月食、赤い満月がみられそうです。ぜひ今夜も空を見上げて宇宙の神秘を感じてください。



さて、きょうは言葉についてお話したいと思います。先日、久しぶりに同僚と話をしていた時のことです。会うのはなんと13年ぶり。昔のことをみんなで色々思い起こし、こんなことがあった、あんなことがあったとおしゃべりをしていたのですが、そんな中で私が言った一言が忘れられないという話になりました。その会話が合ったのは15年以上前のことです。その会話を私は全く覚えていません。内容は笑い話になるようなことで、良い意味で私らしいと言ってくれたので、安心しましたが「あ～、言葉ってこんなに強く人の心に残るものなのだ。」とその時、改めて思いました。ひょっとして、その言葉が相手の胸に突き刺さるような言葉だったとしたら、言った本人は忘れていて、と思うとおそろしくなります。相手に気持ちを伝える方法はいろいろありますが、相手に一番はっきり、強く伝えることが出来る手段が言葉です。だからこそ私たちはこの言葉の使い方について、よく考えなくてはなりません。

「うざい、きしよい、きもい、死ね、殺す」といった言葉を最近、若い人がいとも簡単に使っているように感じて、危惧しています。

日本語俗語辞書の『うざい』の項をみると意味の説明のあとに、1980年代のツッパリブームから関東圏を中心に使われるようになり、1990年代には不良以外にも使われ全国的に普及する。2006年、学生の相次ぐ自殺が社会問題となるが、『うざい』と言われたことが原因となったり、『うざい』の一言が発端で殺傷事件になるほど荒い言葉なので使用には注意が必要である。とありました。『うざい』というのはナイフにもピストルにもなる言葉ですから、取扱い注意ですよ。ということだと思えます。

みなさんは大丈夫ですか？簡単に口から出していませんか？一度口から出してしまった言葉は引っ込めることができないのです。一度書いてしまった言葉も訂正することができません。

消しゴムで消しても、Lineを削除しても、一度相手に届いた言葉は相手の心の中に残るのです。言った方は忘れたけれど、言われた方は忘れられない。時にはその逆もおこります。そんなつもりで言ったんじゃないのに、ということもよくあることですが、これらの人を傷つけるような言葉は、そんなつもりでなくても使うべきではありません。そんな汚い言葉を口に出すこと自体、人間としてとてもはずかしいことです。

### 美しい言葉は相手の気持ちにやわらかく、しみ込みます。

美しい言葉というのは、決して標準語とかそういうのではなくて、場をわきまえたきちんとした言葉です。きちんと自分の言葉で説明ができる。敬語が使える。ていねいで相手に正しく伝わる。その言葉を聞いた人が気持ちよく受け入れられる。

歌が人の心をうつのは、もちろんメロディーの力もありますが、歌詞、吟味された言葉が使われているからだと思います。よく考えられた言葉です。これも美しい言葉といえますね。日本語には同じ事柄を伝えるのに、たくさんの言い方があります。皆さんにはたくさんの本を読み、多くの人の話を聞いて語彙を増やして、その時と場合に似合った言葉を使えるようになってほしいと思います。そうすれば人とのコミュニケーションも自然とうまくできるようになります。語彙が増えれば、しっかり考えられるようにもなりますね。

何が美しくて、何が美しくない言葉なのかを考えてみましょう。自分の言葉を振り返り、汚い言葉を使わない。そして、美しい言葉で話す練習をしましょう。友だちとの会話、授業中、その他にも、2年生はもうすぐ職場体験、3年生も面接試験など実践の場があります。

職員室に先生を訪ねる時も「〇〇先生、いますか？」より、「〇〇先生はいらっしゃいますか？」の方がいいですね。

自分の言葉で人を傷つけることもある。反対に人を癒すこともできる。私たちはすばらしい手段を持っているのですから、言葉を上手に使いたいものです。私たち大人も含めて、自分の発した言葉に責任を持ち、自然と口から出る言葉が美しくなり、きちんと話すことのできる人になりたいと思います。

言葉には、その人の気持ちが表れます。だから実は・・・、

### 美しい言葉で話す、というのは誰に対しても美しい心で向き合う

ということなのだと思います。以上で私の話をおわります。